連載 鉄道ものがたり

鉄道を利用する人、鉄道に関わる人たちと皆さまをつなぐため、
豊肥本線と人々が紡ぐ物語を連載記事として紹介していきます。

STORY 0

私たちにとって豊肥本線とは

明治5年10月14日、新橋〜横浜間に日本で最初の鉄道が開通して以来、鉄道は日本の社会そのものを繋ぐ役割を果たしてきました。

昭和3年に豊肥本線全線が開通し、阿蘇にも鉄道が通るようになると、阿蘇に住む人や阿蘇を訪れる人々の生活に密着した存在として、たくさんの人や物を運んできました。

一方で、近年は人口減少やマイカーの普及により利用者は減少しています。鉄道を未来に残していくため、私たちは鉄道が持つ価値を改めて考えていくことが必要ではないでしょうか。

STORY 1

あそのしばあば、まっててね♡

立野駅で停車中に撮影。上から陽茉莉（ひまり）さん、瑛翔（えいと）さん、翔惺（しょうせい）さん。
「降りたらだめだよ」と言う陽茉莉さんの言いつけを守ったのか、
体を少しだけ外に出して撮影に応じてくれました。

立野駅では特急あそぼーい！とすれ違いました。
楽しげな車両に「あれに乗りたい」と翔惺さん。

肥後大津駅で出発を待つ3人。大きな
荷物の管理も陽茉莉さんの役割です。

3人の姉弟を乗せた赤いディーゼルカーは阿蘇へ

ディーゼルエンジンの音が鳴り響く肥後大津駅3番のりば。真っ赤なディーゼルカーの車内では阿蘇方面へ向かう乗客が静かに出発を待っていました。大きなリュックを背負った登山客や中学生らしき買い物客に混ざり、ひときわ小さな3人の乗客が4人掛けのシートに座っていました。

「あのね、宮地駅で阿蘇のばあばが待っているの」。女の子がこう言いました。熊本市内に暮らす小学3年生の井野陽茉莉さん。弟の翔惺さん（小1）、瑛翔さん（5歳）と共に阿蘇市内の祖父母宅へ3人で向かっていました。敬老の日のプレゼントを曾祖母、祖父母へ渡しに行くという目的を果たすためです。

午後5時16分、3人を乗せた列車はエンジンを唸らせながら出発。こどもたちの手遊びゲームが始まり、車内に楽し気な声が響きます。

約15分で立野駅に到着。ここでは熊本方面の列車とすれ違うため、10分間停車します。「降りたらだめだよ。ママに言われたことは守らないと」。陽茉莉さんはリーダーとして弟たちに優しく伝えました。3人にはそれぞれ母親の由依さんから役割が与えられていました。リーダーの陽茉莉さんは荷物や切符の管理。翔惺さんは降りる駅の確認。瑛翔さんは飲み水やばあばに渡すプレゼントの管理。由依さんは「役割を全うして達成感を感じてほしい」と話します。

立野駅を出発し、カルデラの中を約20分走ると終点の宮地駅に到着です。笑顔で出迎えたばあばに「パンが食べたい」とねだった3人。プレゼントを握りしめたまま、少し疲れたようすで駅前のパン屋に吸い込まれていきました。

鉄道を子供たちに残したい

由依さんは旅を振り返り、鉄道が走っているからこそできた貴重な経験だと話します。「鉄道の存在が3人の成長の中でかけがえのない1ページになっています」。移動手段が限られる子供たちにとって鉄道が大切な存在であることにも触れ、「大人として子供たちに選択肢を残してあげるのは大切なこと」と続けました。

宮地駅に到着後、
駅前のパン屋に
入る子供たち。